

令和5年度 地域情報化アドバイザー制度活用報告書

地域情報化アドバイザー制度の活用実績について、下記のとおり報告します。

記

1. 申請団体情報

1-1. 申請団体

団体名	北海道テレコム懇談会	代表者名	山本 強(北海道大学 名誉教授)		
担当者部署	事務局 ((株)道銀地域総合研究所)	連絡先電話番号	011-233-3562		
担当者役職	事務局長(地域戦略研究部長)	担当者氏名	清水 友康	連絡先E-mail	
住所	060-8676 北海道札幌市中央区大通西4丁目1番地				

1-2. 推薦団体（「区分」が「協議会」または「NPO・商工会・大学等」の場合のみ入力）

団体名	総務省 北海道総合通信局	連絡先部署	情報通信部情報通信振興課		
担当者氏名	奥野 典子	連絡先電話番号	011-709-2311(内線 4717)	連絡先E-mail	

2. 派遣アドバイザーに対する評価と要望

支援を受けたアドバイザーに対する評価をお願いします。

アドバイザー	山形 巧哉
評価	大変よい
上記評価の理由（どのようなところがよかったか等詳細に）	当日の円滑かつ効果的なパネルディスカッションの実施に向け、事前にパネリストの情報を十分に把握し、パネルディスカッションの進め方についてのたたき台も準備して打ち合わせに臨まれる等、周到に準備いただき、限られた時間の中にも関わらず、濃密な打ち合わせをすることができたため。
アドバイザーへの要望事項	特にございません

3. 地域情報化アドバイザー派遣実績

3-1. 対応日・時間	派遣日予定日（申請書より）	支援内容（申請書より）	期日・支援内容の変更あり		
	令和5年11月1日	事前打合せ(オンライン)	無		
	実施した派遣日	実施した支援内容	開始時刻	終了時刻	内休憩時間（分）
			10時00分	11時00分	
			活動時間（分）	60	
3-2. 派遣場所	会場名	オンライン	最寄駅	オンライン	
	所在地	オンライン	最寄駅からの交通手段	オンライン	

4. 報告書に関しての地域情報化アドバイザーホームページ「派遣事例」への掲載許可

掲載許可	<input type="radio"/> 掲載可	https://www.r-ict-advisor.jp/cases-case-good-practices/past-year-all-houkoku/
------	---------------------------	---

5. 依頼内容及び支援を受けたことによる成果・効果

5-1. 支援を受けた対象者	属性（職員、一般、企業等）について【自由記述】	人数
	事務局職員、自治体職員、企業	8人
5-2. 支援を受けるにあたって目指した成果と実勢に支援を受けたことで改善又は解決した成果・効果		
事業の課題・問題点（具体的にご記入下さい）	セミナーのプログラム中のパネルディスカッションにおいて、「ネクストリーダーズと考えるこれからのDX人材」という大きなテーマについて、限られた時間内で充実した内容とするため、どのような議論をすべきか、内容、スタイル、各種の方法について、パネリストと共に現状を洗い出し、方向性づける必要があった。	
支援により目指す成果（具体的にご記入下さい）	パネルディスカッションの内容を充実させ、セミナー効果を高めるための内容、議論の方向性、スタイル、時間配分、各種の手法などの細かな点について経験をもとにした事務局、パネリストへのアドバイス	
アドバイザーに支援を受けた内容（具体的にご記入下さい）	パネリストがネクストリーダーズという若手であること、また、立場がそれぞれかなり相違していることを踏まえて、「DX人材」をテーマに議論する難しさが、どのような点にあるか課題を整理し、ディスカッションを通じたセミナーの効果を高めるための方向性についてのアドバイスを受けた。当該アドバイスにもとづき、当初案から議論内容を次回までに事務局で再検討することとした。	
支援を受け改善又は解決された内容（具体的にご記入下さい）	限られた時間の中でパネルディスカッションによりセミナー効果を高めるための各種手法の知見などを得られた。また、当日のファシリテーターとして、若年パネリストへの心理的安全性を感じられるような雰囲気づくりも効果的であった。方向性が定まった。	

具体的な成果物	最も当てはまるものをリストより選択下さい。	⑥途中段階であり、具体的な成果物はできていない
改善又は解決されなかった内容 持ち越しとなった内容 (具体的にご記入ください)	パネルディスカッションの具体的な時間配分など	
アンケートの内容と分析結果	講演・セミナー又は個別の事業支援の実施にあたりアンケートを行った場合は、その内容と分析結果についてご記入下さい。(EXCELやPDFでの分析結果を添付されても結構です。)アンケートを行わなかった場合はその理由をご記入下さい。 事前打ち合わせのためアンケートは実施せず	
5-3. 今後の計画	最も当てはまるもののリストより選択下さい	③現段階では課題・問題が残っているため未定
事業の最終的な目指す姿	パネルディスカッションを通じて、DX人材の課題、現実問題が認識され、地域社会DXが推進されること	

なお<その他>を選択した場合、具体的な記入が必要となりますのでご注意ください

6. 地域情報化アドバイザー支援の様子

今回の派遣における地域情報化アドバイザーの支援の様子がわかる「写真(JPEG)」を次ページに数枚程度貼り付けて下さい。

日時: 2023年11月1日 10:00~11:00

出席者: 地域情報化アドバイザー 山形巧哉氏、総務省地域通信振興課 課長補佐 日上俊祐氏、
上士幌町 山崎大地氏、東日本電信電話(株) 寺林智弥氏、沖電気工業(株)宮崎諒氏、
(株)フォレストシー 藤本晶史氏 ※今金町 伊藤翔氏は欠席のため別途
北海道テレコム懇談会庶務 奥野、北島、加藤

自己紹介の後、北海道のDX人材難のアンケート結果状況等をインプットし、DX人材めぐる現状について問題点と思われる点の洗い出しの議論を行った。
その後、セミナーが効果的になるよう、パネルディスカッションの時間配分案、手法等について、ファシリテーターの立場からの進め方などの各種のアドバイスをいただいた。

議論のキーワードは、以下のとおりである。

- # 不幸なKPIにならない人材育成結果の指標
- # X人材は育成できるものなのか
- # 調整能力のあるX人材
- # 組織横断の横串
- # 課題の設定が大事
- # 生成AI、データ連携基盤はマジックワードにあらず
- # 情報Iは国民的素養
- # 今はまだ機器更新には人が必要
- # 不具合はまだ人がカバー
- # 通じ合える共通認識“住民のために”
- # ゼネラリストなはずなのに、中途半端なスペシャリストを求められている現実
- # 停滞は死活問題
- # 2年で結果を出す難しさ

※なお、オンライン会議のため画面のキャプチャーについては撮影を失念したため添付できない旨を申し添えます。